

第 58 回 防災カフェ (Web) を開催しました。



みんなで考えよう！大雨から命を守る行動とは？

～“しがマイ・タイムライン”体験ワークショップ～

日時：2021年5月30日（日）14時～15時30分

ゲスト： 矢守 克也 さん （京都大学防災研究所 教授）

ファシリテーター： 大山 武人 さん 三角 朋子 さん

倉沢 宏希 さん （NHK大津放送局）

滋賀県では、幅広い世代が手軽に取り組めるよう「しがマイ・タイムライン」を学校や自治会などで広く展開していきたいと考えています。今回は、NHK大津放送局の番組「しが！！防災応援ラジオ」の収録の一部に、オンラインで参加する形で、命を守るために、自らの行動を時系列で整理して考える「タイムライン」の作成を体験する「ワークショップ」を開催しました。



ゲスト：矢守 克也 さん



ファシリテーター：大山 武人 さん

まず、ゲストの矢守さんから、「大雨は大きな被害となるまでに例外はあるものの、少し余裕があります。その時間を有効に使って、コロナ対策も踏まえた三蜜を避ける避難を考えることが必要になります。タイムラインづくりを通して一緒に考えましょう。」とお話がありました。

さらに担当者から「しがマイ・タイムラインは、生活や立地条件、ハザードマップをもとに一人ひとりの避難行動計画を時系列で整理しておくもので、逃げ遅れをなくすことに有効です。県民の皆さんへの周知に力を入れていきたいと考えています。」と説明がありました。

タイムラインづくりでは、まず住んでいる地域の浸水や土砂災害の情報を、ハザードマップなどで事前に確認して災害リスク確認シートに記入しておくことになっています。

ハザードマップの見方について矢守さんから、「ハザードマップは科学の力でつくられた災害に関する予言書のようなものと考えてください。自分の避難戦略を考える基本がハザードマップにありますので、しっかりと読み込んでほしいと思います。」というアドバイスをいただきました。

ハザードマップを確認された方にお聞きしました。

Aさん：住まいが土砂災害警戒区域に入っています。避難場所は考えています。

Bさん：土砂災害の危険性があります。近くの子どもの住まいへの避難も考えています。



ファシリテーター：三角 朋子 さん



ファシリテーター：倉沢 宏希 さん

マイ・タイムラインには複数の避難先や逃げられない時の避難先を記入する欄があります。このような時の対処法について考えてみましょう。

矢守さんから、「ベストな避難先は自治体が指定する避難所だと思いますが、土砂災害や道路が浸水していたなどの理由でそこに避難できなかった時に、2つ目、3つ目の避難先を考えておけば落ち着いて行動することができます。」とお話がありました。

避難先を確認された方にお聞きしました。

Bさん：指定の自治会館や小学校もありますが、一番近い子どもの住まいを第一に考えています。

逃げられなかったら、自宅の2階に避難することになると思います。

Cさん：避難先の学校のグラウンドが水に浸かりそうでした。

避難先が決まると、次に自分たちで決めた避難スイッチを記入することになります。

避難スイッチについて矢守さんから、「自治体の避難の指示だけでなく、自分で考えた避難の基準、つまり自分自身の背中を押してくれるものを決めておく必要があります。こうなったら、こういう情報が入ったら我が家は、うちの地域は避難するということを決めておくことを避難スイッチづくりといいます。避難スイッチづくりには3つのポイントがあります。1つは近くの小川の水位がものすごく上がっているなど身近な異変を見逃さないことです。2つ目は川の水位や気象などの情報を確認することです。3つ目は周囲の人はどう言っているか、どう行動しているかを確認することです。」というお話がありました。

皆さんの避難スイッチについてお聞きしました。

Aさん：市からの情報メールをスイッチにしています。中山間部で、高齢者の方も多いので、声掛けをすることになっています。それが周囲の人のスイッチになっています。

Bさん：雨量が避難スイッチになっています。平成25年の台風18号の時に土砂崩れがありましたが、その時の総雨量が385mmを超えていたので、それを基準にしています。

矢守さんからは、「過去の災害の何かの数値を手元に持っておいて、それに迫ってきたら、スイッチを入れるのも効果的な方法です。さらに安全を高めるために、その手前にいくつかのステージをつくっておくのも良いと思います。台風の最接近や大雨が予想されるときに、命を守る行動が事前に完了しているために、逆算してどのタイミングでどう行動をすればよいのかを考えることが大切です。」というお話がありました。

では、マイ・タイムラインでいつどんな行動をとればよいのかを、右表の時系列に合わせて、3日前から考えてみましょう。

タイムラインをつくるうえで、矢守さんから、「(1) 周囲の人や知り合いの人とタイムラインを見比べてみることで、(2) 良い子にならずに、自分の本音に近い部分をあえて書いてみることで。またこれまでに実際に災害を経験した人は、その時どうだったかを振り返ってみてください。予定通りにできなかったことがあったなら、そのことを取り上げて、どう改善できるかを考えてみましょう。」というアドバイスをいただきました。

しがマイ・タイムライン ⁽¹⁾ (台風が近づいているとき・大雨が降りくときの避難行動計画)					
時期	3日前～	1日前～	数時間前～	～2時間程度前	0時間
避難準備	自主避難など注意の呼びかけ		高齢者等避難	避難指示	緊急安全確保
避難レベル	1	2	3	4	5
避難スイッチ					
私の避難行動					
家族の避難行動					

作成の参考になるように、右表の大雨避難ワークショップで出された体験やアイデアについて、スタジオから詳しく説明していただきました。

矢守さんから、「決して正解があるわけではありません。一人一人違っていても当然と思ってタイムラインをつくりましょう。」というお話がありました。

作成された方にお聞きしました。

Cさん：中型バッテリーへの充電、避難先の受け入れ人数が少ないことがわかりました。

Aさん：備蓄品のチェックや家族の行動確認をします。自宅の2階への避難も想定しています。

Bさん：自治会のグループラインで声掛けをします。自分が動くのは1日前からになるように思います。ペットのことも考えて避難を考えようと思っています。

Dさん：家族の行動予定の確認をします。自治会や親せき等との情報交換も考えています。

矢守さんからは、「このようなワークショップの最も良いところは、タイムラインを作成する中で、他の人と情報交換ができ、互いに良いところを取り入れて改良することができます。また自分のタイムラインを作成しても、それで終わりではありません。計画をすることと計画を実行することには大きな差があります。頭の中で計画したことを一つずつ試してみてください。使い勝手が良

大雨避難ワークショップで出された体験やアイデア

- 「高齢の母親を身の回りの用意一式を持って呼び寄せる」
- 「安全な場所にある介護施設に相談し、高齢の家族を受け入れてもらう」
- 「水や食料、車の燃料、スマートフォンの充電」
- 「いつも飲んでいる薬の確保」
- 「近くの川の水位や上流の雨量の確認」。
- 「SNSや電話・直接、近所や友人・自治会での情報共有や声かけを行う」
- 「鉄道など公共交通機関の計画運休の情報の確認」
- 「雨戸・シャッターの確認、植木鉢・物干し竿などの屋内への移動や固定」
- 「水路・側溝の清掃」
- 「職場から早めに帰宅できるように準備する」

いのか悪いのかを試してみることもとても大切なことです。」というお話がありました。

今回のワークショップの感想をいくつかご紹介します。

Aさん：他の人の考えを聞いて、多くの気づきができることが何よりもうれしかったです。

Bさん：タイムラインのことを聞いたことがない人も多いと思います。何を書けばよいか、ヒントになる事柄を入れておいてもらおうと初めてつくる人も考えやすいと思います。

Dさん：マイ・タイムラインの普及活動が大切だと思います。また普段から追記してより良いものにする、家族とよく話し合っておくことが大切だと思います。

最後に、矢守さんからの「タイムラインにはこれが決定版というような書式があるわけではありません。0と1とでは大きな違いがあります。ご参加の皆さんが地域のリーダーとなって意識を持ってくださる方を少しずつ増やしていくことが命を守ることに繋がっていくと思います。」という言葉が印象に残りました。

矢守さん、大山さん、三角さん、倉沢さん、参加者のみなさん ありがとうございました。